

令和6年度予算編成方針

総務部長

本市においては、事業・施策の7本柱のもと、全てが移住・定住の促進につながるよう展開している。戦略的企業誘致や市内企業の堅調な投資活動に加えコロナ禍からの脱却によるサービス消費の回復等を背景に、令和4年度の市税収入は過去最高となった。

また、能美スマートインクルーシブシティ構想では、DXの推進により市民サービスの向上、働き方改革や医療介護・見守りの分野にも取り組み、その成果が表れつつある。

一方で、自然災害の激甚化に対する防災・減災対策や公共施設・インフラ施設の老朽化対策をはじめ、地域コミュニティの弱体化や物価等高騰対策など、喫緊の課題も山積しており財政状況の先行きは益々厳しいものとなることが予測される。

更には、地球温暖化や急速に進む少子高齢化など、社会的な変革や全国的課題への対応も待ったなしの状況である。

そこで令和6年度予算は、これまでの事業・施策が期待していた効果・成果を十分に得られているのか改めて見直し、限られた財源を有効に活用することを念頭に「暮らしやすさを日本一、実感できるまちづくり」「したいこと、能美市だったら叶うかも」の実現に向けて、諸課題に対し、全庁をあげて取り組むことが重要となる。

よって、喫緊の課題への対応や節目となる市制20周年からの更なる飛躍に向け、事業・施策のスクラップ&ビルドを念頭に、下記に定める方針により編成を行う。

事業・施策の7本柱

- ① 子育て・住環境の充実
- ② 産業振興・企業誘致推進・人財確保対策
- ③ 交流人口の拡大
- ④ 教育力の向上
- ⑤ 安全安心のまちづくり
- ⑥ シティプロモーション
- ⑦ 行財政改革

5つの方針・目的

- ① 「インクルーシブシティ構想」: 7本柱の事業・施策の全てにデジタルトランスフォーメーション(DX)を取り入れ、SDGs未来都市に認定された都市として持続可能な地域共生社会の実現と自然動態の増進も図る。
- ② 「防災減災対策」: 過去に経験したことのない大雨災害が頻発するなか、市民や地域の状況に応じた対策を国・県の協力も得て施し、老朽化した施設、事故など危険性が高い箇所の改善を引き続き進める。
- ③ 「市民力・地域力の強化」: 能美市制誕生20周年を控え、「ふるさと愛の醸成」を図り、文化度やスポーツ力も高め、「暮らしやすさを日本一、実感できるまちづくり」を達成する。
- ④ 「地域ブランドの確立」: ウェルビーイング(Well-being)の向上を推進し、北陸新幹線県内全線開業効果を永続的、且つ多分野に享受できるよう知名度・魅力度の向上にも取り組んでいく。
- ⑤ 「ゼロカーボンシティ」: 近年の異常気象を鑑みても温室効果ガス排出量の削減は喫緊の課題であり、グリーントランスフォーメーション(GX)など、市民・事業者・行政が一丸となって2050年の二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す。

その他

- ・補正予算は制度改正、災害関連経費など止むを得ないもの、真に喫緊の課題解決に係るもの又は当初予算編成の中で協議したもの以外は、原則、行わない
 - ・国、県の各種制度改正や新規財政需要の増加等がないか、常にその動向を注視すること
 - ・具体的な予算要求の方法等は別途財政課長通知(予算編成要領)を熟読のこと
- 以上